

こども若者★いけんぷらす 実施報告

■ ■ ■ テーマ ■ ■ ■

「結婚」「子育て」したい? したくない?

開催日時

対面：令和6年7月28日（日）10:30～12:30

オンライン：令和6年7月29日（月）19:00～21:00



開催概要

テーマ	「結婚」「子育て」したい?したくない?
開催日時	①対面 令和6年7月28日(日) 10:30~12:30 ②オンライン 令和6年7月29日(月) 19:00~21:00
参加対象者	ぷらすメンバー(高校生、大学生、社会人) 28名 対面(4グループ) オンライン(3グループ) ・ Aグループ: 社会人/5人 ・ Aグループ: 高校生/4人 ・ Bグループ: 高校・大学/3人 ・ Bグループ: 大学生/3人 ・ Cグループ: 高校生/4人 ・ Cグループ: 社会人/4人 ・ Dグループ: 大学/5人
主なヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none">・ 将来、結婚したり子育てしたいと思っているか。・ 自分や周囲の人が、結婚しない・できない・しようと思わないのは、何が要因だと思うか。・ 自治体による結婚支援の取組についてどう思うか。・ ライフプランニング支援についてどう思うか。・ 上記以外に、結婚の希望をかなえるために、国や自治体にやってほしいことは何か。

Q1.将来結婚したり子育てをしたいと思っているか。

- ・一人でいるのは寂しいから結婚はしたい。助けてくれる信頼するパートナーがほしい。(男性3)
- ・結婚はしたい。単純に憧れがある。ドラマなどの夫婦のシーンをみると憧れる。(女性1)
- ・結婚はしたいし、子供は可愛いので、夫婦二人三脚で生活したいが、経済的な不安と、自分の自由が減ってしまうことへの不安はある。(男性2)
- ・結婚はしたいが、自分の好きなことができなくなることや、育休を取るときに周りの目を気にしたり、職場の働き方がブラックなのはと不安に思うことが多い。(女性4)
- ・結婚はしたいが、子育てに関しては「命を育てる」という意味になり、それを考えると自信がない。(女性3)
- ・自分の親を見ていると、収入の大部分を子育てに使っているのではと感じる。教育費や老後の資金を考えると、自分に使えるお金は減ってしまうと思う。(男性2)
- ・相手にもよるが、遊びに行くと嫌な顔をされたり、異性と遊べなくなるし、対人関係でデメリットを感じる。(男性3)
- ・子育てはしたくない。自分の子供が学校でいじめられたりしたらどうしよう、と思ってしまう。結婚に特別ステータスを感じない。人とは違う生き方がある、ということを見せていきたい。(男性1)
- ・20代後半～30代前半に、仕事に慣れてきたところで結婚したい。(男性3)
- ・こどもを産むことを考えると28～30歳までには結婚したいと思っている。高齢出産は難しいイメージがある。(女性1)
- ・こどもの数は、世帯の年収次第だと思っている。自分が一人っ子なので、2人は産めたらいいと思う。(女性2)
- ・出会いの場としては、同じ価値観を持つ人が多い大学のサークルなどで探したい。(男性2)
- ・こどもに対する周りの目は厳しくなっている気がする。公園でのボール使用が禁止だったり、どこで遊べばいいかわからないイメージ。噂が近所に広がったり、近所付き合いの目も怖い。(女性2)
- ・大学で出会いがなければ、最終手段としてマッチングアプリを使っても良いと思うが、ギャンブル的な要素がある。(男性3)
- ・男性が育休を取る時代になっているが、実際は周りに迷惑がかかっているのではと思う。(男性2)
- ・育休を取ると、その仕事を担う人にお金が入るシステムがある企業を知っている。それには賛成できるし、心地よく育休がとれる環境になると思う。(男性2)
- ・ドラマで、男性が育休を取ると言ったら周囲から引かれるシーンを見て、出産予定日から逆算して仕事を進められたらいいのと思った。(男性3)

Q1.将来結婚したり子育てしたいと思っているか。

- 25歳で結婚が理想だが、就職後に実家を出たら頼れるところがないのが不安に思う。(女性4)
- 人生で一回しかないことだから結婚はしてみたい。こどももほしい。理想は27歳で出産。(女性7)
- こどもがほしいから結婚したい。婚姻関係を結び、家族になりたい。老後に一人は寂しい。仕事もしたいから子供は30歳くらいで一人目を産んで、二人はほしい。(女性5)
- こどもは好きなのでほしいが、家事の負担が減るような、こどもとの時間が増えるような支援があってほしいと思う。(女性2)
- こどもがほしいから結婚という流れが必要だと思っている。(女性6)
- こどもがほしいため、結婚という前提の流れが必要だと思っている。早めに結婚したい。(女性6)
- 結婚はしたいが、子育ては考えるほど難しいと思う。こどもを保育園に入れたくないと思っているが、経済的には難しいのだと思う。(女性2)
- 結婚はしてもなくてもいい。妊娠や出産はSNSで大変そうな情報が入る一方、リモートなど働き方次第で楽しそうに両立している情報も入ってくる。(女性1)
- 結婚は迷っている寄りのしたくない。パートナーとどう生活していいか、知識がなくて不安。(男性1)
- 結婚は趣味などにお金を費やしたいからしたくない。縛られずに伸び伸びしたい。(男性3)
- 結婚は現実的には考えられない。責任やお金が生じて人生の選択肢を狭める。(女性3)
- 出会いのために人と関わりを増やそうとしているが、サークルは深い仲になれない。(女性2)
- 出会いを求めての活動はしていないが、色々な人と関わるためにサークルに参加したり、授業で隣の人に話しかけたりはしている。(女性1)
- 大学は似た価値観の人と出会える場としてはいいと思うが、違う価値観の人とも出会いたいと感じる。(女性1)
- 結婚は家族が増えるメリットはあると思う。自分の周りは未婚ばかりだから、先に結婚したら疎外感を感じそう。(女性3)
- 転勤があるとパートナーやこどもの環境を変えてしまうので、転勤はしたくない。(男性1)
- 単身赴任は不安なので、テレワークが多い就職先を考えたい。(男性2)

- 結婚したいが、出会いの場がなく、色々な人と関われる場所や機会がほしいと思う。(女性2)
- 理由はあまり考えたことがないが、結婚・出産は、自分の中で次のステップになっているので、子どもを産んで育てたいと思っている。(女性5)
- 女性なので結婚・出産はしたいと思っている一方、子育ては責任が伴うので慎重になる。(女性1)
- 将来的には結婚したいが、今は給与面も厳しく、出会いの場もない。積極的には欲しいと思っておらず、一人が気楽というものもあり、今は結婚に対して意識は向いていない。(女性4)
- 良い人と出会えれば結婚したいが、今は自分の時間を大切にしたい。また、結婚すると社会的に女性の方が不利になる状況もあるので積極的にはなれないと思っている。(女性6)
- 子育てをしたいので結婚したいと思っているが、自分が出産をするときに日本の状況がどうなっているか不安であり、無責任に産むことはできないと考えている。また、自分も出会いの場がない。(女性3)
- 「こどもが欲しい」がゴールで、結婚はその手段だと思っている。一方、その考え方が正しいのかという疑問も自分の中にある。(男性1)
- 周りに結婚したいという人もいるが、自分は結婚したいと思っていない。いずれは結婚願望を持つこともあるかもしれないが、今は持っていない。(男性3)
- マッチングアプリを使用したことがあるが、サクラにあたりと、いい出会いがなく、止めてしまった。子供は可愛いと思うが、仕事が忙しい中の子育ては、子供に迷惑ではと思う。(男性2)
- マッチングアプリは、安全になってきていると理解しているものの、まだ抵抗を感じる。(女性3)
- 物価が上昇し教育コストも高いため、子育てにはお金がかかる。自分の収入や貯蓄では、現状、結婚、子育ては考えられない。(女性4)
- 自分は奨学金を借りて大学に進学したが、その返済のため、将来への貯蓄や資産形成などができおらず、その状況を鑑みると、今は結婚・出産は考えられない。奨学金を借りている学生は意外に多くおり、社会に出ても奨学金を返済するところからスタートしなければならないため、なかなか結婚を考えられないのではないかと思う。(女性5)
- 大学に行くのはお金がかかるが、大卒は社会人にとっては、必須になってきていると考えている。大学の費用に関する支援が行き届いていない中、軽率に子どもを産んでしまったら、大人になるまで育てられるのかという不安を感じる。(女性6)

Q1.将来結婚したり子育てしたいと思っているか。(2/2)

- 自分は親が苦勞する姿を見て育ってきた。支援の枠組みはあるが、その枠組みから外れる人が非常に多いと感じている。また、支援の対象となっても、金額面など量として十分でないということも感じている。(女性4)
- 職場などの同じコミュニティで恋愛関係にある人が多いのは、同じ時間を長く過ごすことから、価値感などの刷り合わせがしやすいためではないかと考えている。(女性6)
- 昨今の過剰なハラスメントの風潮もあり、職場など同じコミュニティでの恋愛を避けるという人もいると思う。(男性3)

Q2.自分や周囲の人が、結婚しない、できない、しよう
と思わないのは、何が要因だと思うか。

- 結婚できない人は、相手に過剰な期待をしすぎていると思う。(男性1)
- 日本は価値観が男女で二分されているが、ヨーロッパなどは男女対等。日本特有の要因が存在すると思う。(男性1)
- 恋愛が時代と共に複雑化している。「思わせぶり」「じらす」という言葉が先走ったり、友人間で噂が広がるのが早く、言いたいことがあっても、気持ちを控える風潮がある。(男性3)
- 昔は「幸せ」の概念が固定的だったが、今は多様化している。結婚しなくても幸せ、という考えがあるのだと思う。(女性2)
- 結婚だけが幸せではないと思う。付き合っただけで学校ですぐ広まるし、恋愛をするのに周りの目を怖く感じる。(男性2)
- 一番は金銭的なところが要因だと思う。大学進学率が上がっているのに教育費を捻出できない不安や、非正規雇用が4割を占めていて社会保障も手厚くない中、結婚しようと思えないのだと感じる。(女性1)
- Netflixなど一人でも楽しめるコンテンツがたくさんある一方、結婚は相手に気を遣ったり面倒なことが多いため、より「楽」な娯楽の優先順位が高くなるのだと思う。(男性3)
- 男女共に互いに求める経済力が高くなっていて、自分の年収の低さで諦めていることもあると思う。(女性1)
- 男性が自分のスペックに自信がないのが要因だと思う。女性から評価されている感じがする。(男性3)
- SNSやネットの世界が比較対象となり、自分に自信がなくなる要因になっていると思う。(男性2)
- 漫画・アニメ等の影響により色々な形があってよいという価値観が刷り込まれ、結婚を希望しない人もいると思う。(女性4)
- ネットの発達により、自分ひとりで完結できるようになってしまったからだと思う。姉を見ていても一人で充実した日々を過ごしているのがわかる。昔より一人であることに抵抗感がなくなっていると思う。(男性5)
- マッチングアプリ等でうまくいかないケースを見ていると、自然な出会いの場を用意できれば改善するのではと思う。(女性4)
- ボランティアによく参加するが、同じ仲間が集まるので警戒せず接することができていいと思った。男女や年齢関係なく知り合える場が必要だと思う。(女性4)
- 結婚に対して重く考えすぎている部分があると思う。ニュースなどメディアで見る結婚もマイナス面が取り上げられがちで、バツイチという言葉も「バツ」がマイナスの意味を持つので、よくないと思う。(男性5)
- ニュースで「子育て支援」という言葉を目にすると、そもそも大変なことだから支援が必要なのだな、と思ってしまう。(男性5)
- 都会に住んでいると地域でのコミュニケーションがないので、頼れる人がそばにいないと不安に感じると思う。(女性4)

Q2.自分や周囲の人が、結婚しない、できない、しようと思わないのは、何が要因だと思うか。

- 結婚や子育ての知識もなく、価値観をすり合わせるのも大変なのだと思う。(女性4)
- 価値観の一致や、相談できる環境の有無とかが要因になると思う。子育て本はあるが、ライフデザインを学べる場所があればなおいいと思う。(女性3)
- 自分の時間がほしいとか、仕事に集中したいという理由もあると思う。多様な価値観が存在する時代で同じ価値観の人を探すのは困難だと思う。(女性6)
- 自分の時間がなくなってしまうのが一番の要因だと思う。(女性7)
- SNSで夫に腹を立てているような愚痴投稿を見るからだと思う。モラハラ夫についての投稿など、つい見てしまう。(女性2)
- 男性が育休を取りにくいイメージが強い。結婚前の若者の税負担などを減らすべき。(女性5)
- 父親は仕事、母親は家事、というお互いが相手に求めるものへのストレスでうまくいかない話を周りでよく聞く。(女性7)
- 夫婦同タイミングで最低1年は取るべきだと思う。子育てへの責任感に男女で差が生じてしまうと思うから。(女性3)
- 今が充実していて結婚したくない人と、結婚の責任を負いたくない人がいると思う。(女性3)
- 結婚をしたくない人は自分が育った環境が良くないため、それを繰り返したくないからだと思う。(男性1)

Q2.自分や周囲の人が、結婚しない、できない、しようと思わないのは、何が要因だと思うか。

- 産後、女性は不安なことばかりであるのに、夫が忙しかったり、両親も高齢まで働いているため、頼ることができずに女性が一人で子育てをしなければならない家庭が増えているが、支援が十分でない。産前産後の支援がもっと必要であると考える。(女性3)
- 要因としては、①娯楽が多すぎて現状に満足している、②出会いがないから、③結婚することへの不安、特に経済的な不安が大きい、④芸能人の年の差婚などを見ており、結婚への理想が高いことなどがあると考える。(男性1)
- 理想が高いという観点でいくと、金銭面も大きいと思う。そこでの相手との不一致もあるものと考える。(男性2)
- 自分の場合は、出会いの場がなかったというよりは、大学時代はバイトや学業、高校では資格取得や部活動で忙しかったため、心と時間の余裕がなかったためであると考えている。(女性4)
- 自分の学生時代は、周りに男性がいない環境で、周囲も恋愛をしていなかったなので、恋愛しようという気持ちにならなかった。学生時代に恋愛をしてこなかったら、大人になっても恋愛や結婚の優先度が下がってしまうのではと考えている。(女性6)
- 自分は、長い間、結婚を考えていなかったが、理由として時間や金銭的に自分のことで精一杯だったというのがある。また、自分の家庭環境から、結婚生活や自分が母親になるイメージができない。自分のような(社会的養護の)家庭環境でも、一般的な家庭の親から話を聞いたり、こどもとどのように関わっているかを見る機会があれば、自分が結婚・子育てをするイメージを持てたのではないかと考えている。(女性5)

Q3.自治体による結婚支援の取組についてどう思うか。

- マッチングアプリは、結婚が目的なのか、遊びが目的なのか、目的がどこにあるのか区切りをはっきりするべきだと思う。(男性1)
- マッチングアプリや合コンは性別が男女2つしかない。自分はどちらにも属さない人間のため、ハードルが高く感じる。性別ではなく人間で評価される軸があってほしい。(男性1)
- AIマッチングは、いくらAIでも入力する時点で事実とは異なる情報を入れることができるので、マッチング結果も精度が高くないと思う。完璧には信用ができない。(男性2)
- 支援を受けなくても出会えるのが理想。困ったら自治体の支援を使ってもいいと思う。(男性3)
- AIマッチングアプリは登録者が少なさそう。匿名性の高いオンラインセミナーなら参加してみたいと思うかもしれない。(男性2)
- 岡山県では、同窓会を開くと補助金を受けられると聞いた。同窓会で出会って結婚する人もいるので、地元での出会いは安心感があっていいと思う。(女性1)
- 他県の人と知り合えると、他県の魅力を知ることができてよいと思う。自分の地元だと人が少なくて限られてしまって出会いとしては微妙に感じる。(男性3)

Q3.自治体による結婚支援の取組についてどう思うか。

- セキュリティやバックアップがしっかりしていると聞いて、もっと認知されると良いと思った。(女性2)
- 公的機関のものと一般企業のマッチングアプリがどう違うのかは、興味がある。(女性1)
- 結婚しましょうと押し付けにならない方が良いと思う。結婚したくない人よりも、結婚したいと思っている人や子育てしたい人をどれだけ支援できるかが大事だと思う。(女性1)
- 自治体の支援を利用する人は、かなりモチベーション高い人に限定されていると思う。(女性3)
- 認知を広げるためにSNSをもっと活用して、若い世代にPR戦略をとるべき。(男性1)
- 自治体について検索するハードルは高いと思う。参加したら特典が付くくらいメリットがないと、結婚に積極的でない人には特に刺さらないと思う。(女性5)
- 大学のカリキュラムなどに強制的に入れ込むくらい、存在を知らせたほうがいい。(女性3)
- 出会ったあとのフォローもしてほしい。出会っても別れるのでは意味がなく、どうしたら結婚に至るかのフォローもあってほしい。(男性3)
- 子育て層がリフレッシュできる場所や、こどもがいない人の居場所作りや、同じ悩みを抱える人が集まれる場所作りなどにも力をいれてほしい。(女性6)
- 夫婦間で起きたトラブルを気軽に相談できる場所を作った方がいいと思う。(女性7)
- 実在する夫婦に悩みを相談できる機会を提供してほしい。(女性6)

Q3.自治体による結婚支援の取組についてどう思うか。

- 東京都のマッチングアプリは、独身証明書や年収などを提出する必要があるため、利用するのは厳しいと感じている。結局、年収という軸で判断されるのではないかという思いがある。(男性1)
- 東京都のマッチングアプリを利用するために独身証明書を提出する必要があるという点は、信憑性が高い。また、国などが実施していることで安心できると思う。(女性3)
- 同窓会に助成金を出すという取組はよいと感じる。沖縄は、同窓会の集合率が高いため、婚約率が高いと聞いている。(男性1)
- 婚活の取組については、自治体で実施すると居住などの条件に制限が出てしまうので、国が実施する方がよいのではないかと考える。(女性3)
- 愛知県では、ジブリパークで婚活イベントをやっていた。定員の5倍を超える応募があったと聞いている。また、自分はAIマッチングを知らなかった。もっとこうした取組について、周知されるべきである。(男性2)
- マッチングアプリについては、結婚目的か恋愛目的かが人によって違うのが困ると思っている。また、マッチングアプリで出会ったことを親などに理解してもらうのが困難ではないと感じる。(女性1)
- 婚活自体は普及している一方、結婚式などでマッチングアプリや結婚相談所を通じて出会ったということを言わずらいという意見を、友人から聞いている。(男性1)
- 自治体ごとに特色のある出会いの場を作してほしいと思う。(女性1)
- 自治体による結婚支援のうち、特に婚活イベントはよく聞く。出会いの場を提供するのは良い取組だと思う、一方、国や自治体が支援すると、「産めよ育てよ」といった印象を受けてしまい、個人的には肯定的なイメージではない。(女性4)
- 異性とのコミュニケーションの方法が分からない人がいるという話を聞いており、結婚支援の前に異性とのコミュニケーション方法を教えることなどが必要であると考えている。(女性4)
- 女性と男性で考え方が違うが、それを知らない人が沢山いると思う。「異性から見たときにどう思われるか」という意識が薄い男性がいると感じており、円滑なコミュニケーションのために気を付けるべきことなどを教える必要があるのではと考えている。(女性4)

- 自分の作ったライフデザインに囚われすぎないことが大事だと思う。商業高校に通っていた頃、NTTの施設を見に行ったりがあり、実際に見られる経験は良いと感じた。(男性1)
- 乳幼児と触れ合える体験があるはずだったが、コロナで中止になってしまった。子供と触れ合う機会としてはいいなと思う。(男性2)
- 結婚を考えたあとに、支援の存在を自分で調べるのはしんどいように感じる。支援をしてくれるための支援が必要だと思う。(男性2)
- 学校の家庭科の授業などで、結婚することの楽しさや、魅力を知らせるべきだと思う。学校にいるときから結婚を意識するようなプログラムがあったらいいなと思う。(男性3)
- 自分からプランニングしようとは思わないので、計画をたてる機会を設けてもらえるのが有意義だと感じる。(女性3)
- 授業で行う場合、考えたライフプランを皆の前で発表することになり、人に否定されることを嫌がって、型にはまったライフデザインを描いてしまいそう。教師が生徒のライフデザインに色々言ったりすることにも、良いイメージがない。(男性1)

- 中学生でやった記憶があるが、中学生では幼すぎて当時は難しかった。(女性2)
- やったことがあるが、ライフデザインを発表しなくてはならず、本音を書きずらかった。(女性1)
- 自分がやったときは型が決められていたので、もっと自由に描けてもいいと思った。マイナーな職業は知らなかったなので、それらを知る機会があってもいいと思う。(女性2)
- 自分の地域では職業体験を1つだけできるというのがあって良かった。色々な職業を体験できるプログラムがあれば自分事化できていいと思う。(女性2)
- 授業としては過去に曖昧な記憶としてあるが、フォローアップされたものではなかった。(男性2)
- 人生をグラフにする授業が中学であったかもしれない。楽しかった記憶はある。(女性6)
- 定期的に授業で行ってほしい。年齢や学校が変わる度に、考える機会が必要に思う。(女性6)
- 実体験した人の意見を聞く機会とかがあればいいと思う。ポジティブとネガティブな両方の内容を聞いて、現実的に参考にできる機会があればいいと思う。(男性3)
- 授業で受けることはないが、親や親戚との会話でライフプランニングについて学ぶことはある。考える機会という意味では、友達とはライフデザインについて会話することはある。(女性7)

- ライフプランニングの授業を受けたことがあり、人生に困ることがない前提でライフプランを作成したが、税金などについて知った上での現実的なライフプランの作成を実施すべきだと考える。(女性3)
- ライフプランニングの授業は、理想を描くだけになっていたので、若い頃から現実を生きていく上で必要な知識などを学べるようにすべきと考える。(女性2)
- 税金が何に使われているか、税金に関する教育は、小さい頃から実施すべきであると考え。(女性3)
- 税金については、社会に出てから知るのでは遅く、社会に出るまでに知ることが大事と考える。また、分かりやすい教科書や本があるといいと思う。(女性1)
- 自分が障害のある子を出産した際に、利用できる国の支援制度などを知っていると安心感が全く異なると思う。(女性3)
- こどもを産むのにリスクがある年齢などを含む、性に関する知識を知っておくべきであると考え。(男性1)
- 25-30代の女性が、仕事と子育ての両立で悩むタイミングに関わる話については知っておくべき。女性が出産した後どのようなしたら職場に復帰しやすいかなども、ライフプランニングの授業において、学びたいと思う。(女性2)
- 妊娠・出産に関わる教育が、具体的でない。ネットで調べる人もいるが、間違っただけの情報が多いため、正確な情報を学べる場を設けるべきであると考え。(男性1)
- 妊娠・出産について、男女に分かれて学んだが、もっと男女一緒に実施すべきであると考え。(女性2)
- コミュニケーション能力は、家庭環境が影響していると思う。一概に解決するものではないが、小学校の道徳の授業など小さな年齢から教えていく方が良いと思う。(女性6)
- 将来の展望や長期的な計画を立てるための学習は、10歳くらいの時期にやるべきだと思う。自分は高校生の時に学習したが、その内容は、投資などで長期的な期間で見たときのプラスなどを考える上の基礎資料となっている。(女性4)
- NISAのやり方など、お金の使い方や資産形成に関しては、中学生など小さい頃から教えてもらえるといいと思う。(女性5)
- 大学まで補助金や税金の制度などの実用的なものは、教えられないまま、急に社会に出ることになり、何も分からないという状況が起きていて感じている。お金に関する教育について、小学生や中学生から簡単な内容でいいので教育を始めて、高校では、高卒で働く人もいることから、実際の制度や税金の話を教えた方がいいと考える。(女性6)

Q5.上記以外に、結婚の希望をかなえるために、国や自治体にやってほしいことは何か。

- 今の支援は、子育てしている人向けの制度になっている。未婚の人たちに対する支援をもっと作った方がいいのではないかと思う。(女性1)
- 金銭的な支援がほしい。行政が教育の機会やお金を出してあげることが重要だと思う。万が一親が亡くなったときに、子供が教育を受けられるかどうか不安になってしまう。(女性2)
- そもそも結婚しようと思えない人が多いので、子供がいても大丈夫、子供を持ちたいと思ってもらえることやその支援が重要だと思う。(女性1)
- 子育て層を助ける取組があってほしい。子供を産んだ時の給付金など。同性婚や事実婚や夫婦別姓なども寛容になれば、結婚しやすくなるのではとも思う。(女性3)
- 群馬県のぐーちよきパスポート（子育て支援パスポート）は、満18歳の3月まで利用できてお店で見せると5%オフになったりする。経済支援が受けられるのはいいと思う。全国でやってほしい。(男性2)
- 最近児童手当が新しくなり所得制限撤廃などが出ているが、正直本当にやる気があるのかなと思う。児童手当は3人目以降3万円では足りないし、本当にこどもを増やしたいなら、もっとお金を出すなど、大胆な取組が必要。国債を発行するなど。国からの本気度を感じられない。(男性4)
- そもそもこどもを増やしたり、人口を増やす必要はないのではないかと思う。人口が少なくても回っている国（シンガポールなど）もあるので、参考にしたらよいと思う。(女性4)

Q5.上記以外に、結婚の希望をかなえるために、国や自治体にやってほしいことは何か。

- お互いの相性が事前に分かるように、価値観チェックシートを作してほしい。常にここに行けばアドバイスがもらえる、という場所や有資格者を、地域の身近なところに設置してほしい。(女性3)
- ライフプランニングの授業を大学のオンデマンドで実施して、必修科目にしてほしい。(男性4)
- SNSなど若い世代のプラットフォームで結婚について学べる場所や、相談できるところを作してほしい。(男性1)
- 就活の自己分析ではなく、婚活の観点で自己分析できるものを作してほしい。(男性1)
- こどもが自然と目に入る環境作りをして、子育てへの関心度を上げてほしい。(女性6)
- こども家庭庁の取組認知をもっと上げてほしい。若い人は知らない人が多いと思う。(男性3)
- 家事育児の割り振りは夫婦でどれくらいがベストなのか、客観的に判断してくれるシステムがあれば、お互いに刷り合わせずに済んでいいと思う。(女性6)
- 周りの友達も出産 = キャリアストップのイメージが強い。キャリアとの両立のためにも、事前知識やロールモデルの発信がほしい。(女性6)
- 就活の企業説明でも産後復帰した人の声を聞くことがないので、体験した人の話を事前に聞けるような機会がほしい。(女性7)
- 男性育休はただ取るだけの休みになってるイメージがある。ロールモデルになる男性のお手本が何なのか、知りたい。(男性3)

Q5.上記以外に、結婚の希望をかなえるために、国や自治体にやってほしいことは何か。

- 保育士など、こどもに関わる専門職の処遇改善をしてほしいと思う。(男性1)
- 育休を取ると出世コースから外れてしまうという事実がある。また、現在の給与の状況では 共働きをせざるを得ないという状況もある。根本的な社会のサポートや配慮がないということがネックとなって、結婚・子育てをしない人もいると思うので、婚活の支援などの前に、根本的な意識を変えていくことが必要だと感じている。(女性6)
- ただ出会えばいいというわけではなく、人々が納得して結婚に踏み出せる社会を作っていく必要があると思っている。そのためには、どんな支援がその地域にあるかや結婚・子育てにはどのくらいの費用がかかるものなのか、そのためにはどのくらいの世帯年収があればいいかといった情報を、国が主体となって取りまとめたWEBサイトなどがあればいいと思っている。(女性5)
- 婚活などの支援は、自治体が企業などに委託して実施していると思うので、何かあった時の責任の所在などが定められているか心配である。行政が実施しているから安心と考える人は多いので、身分保証などの安心感と信頼感を保証できるような制限が必要ではないかと考える。(女性2)
- 乳幼児の遺棄などの話がニュースに上がることがあるが、父親の姿が見えてこず、母親だけ罪に問われている。また、上記の原因となっている望まない妊娠に対して、どういうサポートがあるかといったことは自分で調べないとならないため、一人で困ってしまう女性がいると聞いたことがある。このような女性に対するケアについても結婚・子育てに対する支援の一環になるのではないかと考えている。(女性6)
- 女性の性を守るようなセーフティーネットが現状薄く、頼り先が分からない人が沢山いると感じている。セーフティーネットをもっと広げる活動を実施すべきではないかと考える。(女性4)